

会議名	平成16年度全国草地畜産コンクール(第43回農林水産祭参加)表彰・発表会
開催日時	平成17年6月23日(木) 13:00~17:10
開催場所	石垣記念ホール(三会堂ビル)(東京都港区赤坂1丁目9番13号)
主催者	社団法人 日本草地畜産種子協会
参加人数(概数)	約120名(受賞者等14、審査委員6、道県関係48、中央団体21、3号会員12)
1. 会議の概要 (500~1,000字程度または議事内容の資料添付)	<p>平成16年度全国草地畜産コンクール表彰・発表会とそれに引き続くパネルディスカッション「草地畜産コンクール受賞者に学ぶ飼料増産の取り組み」に出席して、自給飼料生産による自給率向上と飼料費の低減のための情報を収集した。 (別添の表彰式資料参照)</p> <p>開会挨拶;(浅野会長): 祝辞;農水省生産局畜産部長(塩田課長代読) 審査結果の講評;(萬田審査委員長);表彰式資料81頁 受賞者の表彰;会場内でセレモニー 受賞者の経営内容発表(各10分)。表彰式資料5~80頁</p> <p>【農林水産大臣賞受賞】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古田 常雄(飼料生産部門、飼料作物の部、北海道士幌市) サイレージ用とうもろこしを最大限に生かした酪農経営 高品質サイレージ・高乳量・高乳質生産体系を確立。 <p>【農水省生産局長賞受賞】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・及川 栄樹(飼料生産部門、永年作物の部、北海道富良野市) 高蛋白・高エネルギー粗飼料確保による高泌乳経営 稲作も残る中で、転作田や放棄地を活用した地域組織の中心となり、酪農家4戸による収穫組合でアルファルファ・オーチャード、とうもろこしのサイレージ生産体系を確立、高泌乳酪農経営。野菜作農家との連携で堆肥供給。 ・森下 団蔵(飼料生産部門、飼料作物の部、福岡県若宮町) 乳は大地から!草作りこそ酪農だ!! 耕畜連携による二期作とうもろこし・草サイレージ通年給与で酪農経営。経営内で弟が肉牛肥育を担当して企業化を目指す。飼料イネを販売。 ・跡ガ瀬牧野組合(放牧部門、熊本県阿蘇市) 「融和と協力」をスローガンに周年放牧 入会権を持つ肉牛繁殖6戸による放牧。他地域からの預託牛も受け入れて黒字経営。規模拡大を目指す。 ・安斎 利勝(飼料生産部門、永年牧草の部、福島県川俣町) サラサラ堆肥で地域へ有機物の貢献 県・地域のリーダー的酪農+水稻の複合経営。牧草ロールバールサイレージ。堆肥生産販売。 <p>【日本草地畜産種子協会会長賞受賞】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・村居 修一(飼料生産部門、永年牧草の部、青森県東北町) ルーサンとの混播による自給粗飼料依存型の拡大 アルファルファ混播乾草、牛群検定・自家育成で高泌乳。消費者を重視した販売努力。 ・竹下 弘(放牧部門、島根県太田市) 「人と牛との共生 放牧による労働力の省力化と美しい景観を目指して」 シバ・牧草放牧による酪農・繁殖肉牛経営。“里山放牧の会”会員として地域

	<p>連携。堆肥販売。“ゆとり”のある生活指向。</p> <p>〔日本草地畜産種子協会会長特別賞受賞〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岩本 忠可（放牧部門、岡山県赤磐市、奥さんが出席） 山地酪農への取り組み <p>「草さえ作れば牛が食べて乳を出してくれる」と奥さんを騙し、夫婦一代で大型機械によらないで苦勞して山地傾斜地を放牧草地に拓いた家族酪農経営。センチピードグラスという聞きなれない名前の中国シバを導入。後継者なく、意欲のある者に牧場を譲ってもよいと考えている異色の経営。これを評価しての特別賞であろう。</p> <p>パネルディスカッション</p> <p>「草地畜産コンクール受賞者に学ぶ飼料増産の取り組み」 （座長：萬田審査委員長）</p> <p>座長がフロアーから質問を募り整理して受賞者から話を聞き、最後に審査委員のコメントを聞く方式をとった。主要な論点は下記のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とうもろこし品種選定のポイント；各農家は考えて選定している。ポイントは種実収量。 ・耕種部門に供給する堆肥についての注文やクレーム；難しいのは果樹農家で、水田は完熟さえしておれば品質の問題もなし。定着化が課題。 ・アルファルファ乾草への疑問；牛がよく食べる茎に期待しており、葉はなくなるものとして期待してない。牛を通して評価されるもの。ラップは金が掛かる。北海道の土幌でも1万キロ牛群へのマメ科牧草栽培は地域条件から無理。 ・コントラクター；利用せざるを得ないが、作業時期選定の余地はない。耕畜連携のポイントであるが、経営条件・技術条件により対応すべき技術が異なる。 ・預託受入牛の放牧；傾斜地の野草地でも牛の成育に変わりはないが、預託牛は改良草地に入れている。 <p>草地畜産推進関係補助事業説明会（草地畜産生産性向上対策事業について） （日本草地畜産種子協会 嶺岸 主幹）</p> <p>放牧の推進、反収の向上等草地畜産コンクールの表彰部門との関連が深い、草地畜産生産性向上対策事業の実施上の留意点等について説明があった。 特にこの中で、未利用県に対しこの事業利用について呼びかけが行われた。</p>
5 . 報告者	針生 程吉